



東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2025年11月25日発行

第20号（通巻第380号）

発行者：星山 圭 編集者：組織部

申7号・只見線の安全性向上に対する申し入れ

社員とお客さまの命を守るため 列車を止める設備の整備を求める

新潟地本は11月10日、申7号・只見線の安全性向上に対する申し入れを提出しました。
社員とお客さまの命を守るために、無線難聴区間において確実に列車を止められる設備の整備を求めます。

2025年8月21日、只見線2421Dが雨規制の受信を出来ず、規制区間を通常の速度で走行する事象が発生しました。

只見線での同種事象は過去にも発生しており、乗務員と輸送指令員が支障なく連絡できる環境の整備を求め、2023年度申13号「只見線における無線設備の改善を求める申し入れ」により団体交渉を行った経緯があります。

この交渉で新潟支社は、只見線は無線が繋がりにくい線区であることを認めた上で、「輸送指令員は運転士に対して無線機・業務用携帯電話・衛星電話機などあらゆる手段を使い呼び続ける対応を行ったことから、結果として雨規制区間を所定速度で走行したものの取扱い上の問題はなかった」との回答を行いました。

しかし、大雨による土砂流入や崩壊、橋梁流失など



「改善に向け努力する」 昨年の団体交渉で支社側

只見線において雨規制を受信できず、指令からの無線も通じないために列車が雨規制区間を通常の速度で走行した事象は、2023年11月にも発生しています。

この事象をめぐり新潟地本は昨年1月に「只見線における無線設備の改善を求める申し入れ」の団体交渉を行い、早急な対策を求めました。

交渉の中で支社側は、当日の対応について輸送指令から無線機、業務用携帯電話、衛星電話を使用して列車を止めようとしたが、4分にわたり乗務員に連

設備を早急に整えることが必要です。

新潟地本は11月10日、申7号・只見線の安全性向上に対する申し入れを提出しました。

■申7号 申し入れ項目

1. 只見線の無線難聴区間において確実に列車を止められる設備を整えること。
2. 只見線の無線難聴区間において確実に連絡が取れる設備を整えること。

年末手当回答再考を求めて交渉 経営側「最終回答」との姿勢変えず

本部申15号・2025年度年末手当回答の再考を求める緊急申し入れ団体交渉

年末手当回答の再考を求めて、中央本部は11月14日に、申15号・2025年度年末手当回答の再考を求める緊急申し入れの団体交渉を行いました。

3・1カ月回答の根拠としてコスト増を挙げた経営側に対して組合側は、組織再編の繰り返しによる費用増、職場の円内改良のための工事費、人事異動による慢性的な見習いの増大、単身赴任や通勤手当の増加による人件費の増加などを挙げて、経営の失策ではないかと指摘しました。

経営側は「人事異動は会社として必要な異動」「必要な所に選択しての集中的な投資」であり、「状況を踏まえ適切に判断しており失策とは考えていない」との考えを示しました。

組合側は回答の再考を繰り返して強く求めましたが経営側は「業績を踏まえた最大限の数字であり最終回答である」との姿勢を崩しませんでした。

中央執行委員会はこの以上の前進は図れないと判断し、11月17日に協定案の締結に至りました。

2025年度の期末手当は年間5・9カ月と満足いく水準とは言えないものの、職場から寄せられた多くの声により年末手当は6年ぶりに3・0カ月を超える回答を引き出すことができました。

一方で無線が繋がりにくい区間であり、全区間で使える状態が理想であることについては労使で認識の一致が図れ、支社側は、引き続き改善に向け努力するとしています。



新潟地区分会「クリーンイベント」

新潟地区分会は11月2日（日）に、阿賀町「三川観光きのこ園」において、多くの組合員参加のもと、「き方し、当日はむしろ暑さも感じられるほどの好天に恵まれました。

美味しきキノコとBBQを堪能し、組合員からは「人生で一番キノコを食べた日になりました」との声も聞かれました。

キノコBBQで心身共に癒され、今後の取り組みへの熱意を新たにしました。

（新潟地区分会投稿）